

「人権のひろば」
 に対するご意見、
 ご感想は広報広聴
 グループまたは、
 人権室までお寄せ
 ください。

国勢調査を通して、

「価値観」について考える

現在、わが国では国勢調査が実施されています。調査票には、世帯の人数や出生の年月、就業・通学に関することなど、さまざまな調査項目があります。皆さんの中には「どうして出生の年月まで答えないといけないのか」「仕事の内容について答えたくない」と感じる人がいるかもしれません。しかし、この調査結果から読み取れる現在の社会状況などの基礎情報は私たちの暮らしをよりよくするために用いられています。そのため、私たちは国勢調査に回答する必要があります。回答することを義務として考えるだけではなく、自分とは違う価値観の存在に気づくきっかけにしてみませんか。

国勢調査における市内の産業別

人口を比べてみると、この50年の間で、農林漁業をしている人は9345人から79人に減少し、第3次産業をしている人は1668人から約3万人に増加しました。第3次産業の中でも情報通信業やサービス業などは特に大きく変容し、多様化・細分化されました。

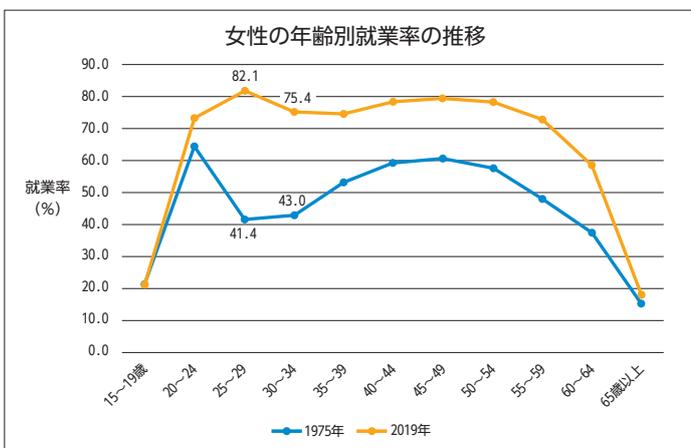
また、20〜24歳の就業者数は全国で約700万人から約460万人に減少し、大学・短大進学率は約25割から約55割に上昇しています。このことから、就職よりも進学することが珍しいことではなくなつたと伺えます。

女性の就業を取り巻く状況も変わってきました。図を見ると、1975年には25〜34歳の就業率が大きく下がっています。これは、結婚や出産を機に仕事を辞める女

性が多かったからだといわれています。しかし2019年には、同じ年齢でも、仕事をしている女性の割合が高くなりました。このことから、時代の流れとともに、仕事と結婚・育児に対する考え方も変わったことがわかります。

このように、50年前と比べると現在の生活や価値観が多様なものになってきています。

自分とは違う価値観は多様に存在します。一人ひとりの価値観の違いを理解し尊重することで、生きやすい社会となるのではないで



編集後記

秋といえば食欲、スポーツ、読書…。今月の表紙は「読書の秋」にちなみ、市内の図書館で本を撮影。特集では、東部・中央・西部図書館の取り組みなどを紹介しています。「図書館＝本を借りるところ」というイメージを抱きがちですが、いろいろな活用方法があります。3館とも充実したすてきな図書館なので、ぜひ積極にご利用ください！ (石)



▲まったり読書中

でしょうか。国勢調査では、それぞれの事情を持った皆さんの調査票が集まることにより、社会にどのような人たちがいるかが見えてきます。調査への回答を通して、地域にさまざまな人が住んでいること、そしてそれぞれの価値観が存在することについて、改めて考えてみませんか。

人のうごき 令和2年8月末現在(前月比)
 人口 119,810人(-151人)[男:58,456人(-113人)、女:61,354人(-38人)]
 世帯数 57,264世帯(-37世帯)